

アサリ研究のフィールド体験

独立行政法人

水産総合研究センター 中央水産研究所

水産生物学、水圏環境学

会期：2010年8月23日（月）12：30～8月25日（水）16：15 2泊3日

アサリは潮干狩りでもおなじみの身近な生きものであるとともに、古来より我が国の貴重な水産資源です。ところが近年、その漁獲量が著しく減少し、回復のきざしが見えません。水産総合研究センターではアサリが減った原因を探り、資源の減少を食い止めるためのさまざまな研究を行っています。アサリの生態は小さなからだからは想像できない神秘に満ちています。そして、海の環境を維持するうえでも、とても重要な役割を担っています。今回のキャンプでは、横浜市海の公園をフィールドとして実際のフィールド調査の方法やアサリの生態、環境との関わりについて学びます。



会場

独立行政法人 水産総合研究センター中央水産研究所
横浜市金沢区福浦2-12-4
（JR「横浜駅」より約50分、横浜新都市交通金沢
シーサイド線「市大医学部駅」下車、徒歩5分）
URL：http://nrifs.fra.affrc.go.jp/
宿泊場所：横浜テクノタワーHファミリー（予定）

募集人数

10名

キャンプのプログラム内容（予定）

（1）アサリとフィールド研究、漁業に関する講義
水産総合研究センターの研究者が、フィールド調査の意義、最新のアサリ研究、漁業の歴史などについて解説します。

（2）アサリに関するフィールド調査と解剖・分析実習
横浜市海の公園周辺の干潟上でのアサリ採集、小型ボートに乗船しての海水試料の採集などを行い、研究所に持ち帰ります。採集したアサリを解剖して、体のつくりや何を食べているかを調べます。また、アサリのおえさとなる海水中の植物プランクトンの量や種類を顕微鏡観察や水質分析により調べます。さらにアサリの摂餌速度の測定などを行い、アサリの生態と環境との関わりについて学びます。

（補足：雨具の用意をお願いします。）

スケジュール（予定）

1日目 8月23日（月）

12:30～13:00 集合受付
13:00～13:45 開講式、ガイダンス
14:00～16:00 調査船蒼鷹丸、研究所研究施設見学
16:00～17:00 （講義）「発想の原点～ものを見ること。フィールドに出ること」
（講義）「アサリ研究から漁業と環境を考える」
17:30～19:00 講師等との交流会

2日目 8月24日（火）

9:00～12:00 フィールド調査、アサリ、プランクトン、海水試料採集
12:30～13:30 昼食
13:30～17:00 （実習）アサリ解剖、アサリの生態に関する実験、水質分析など

3日目 8月25日（水）

10:00～11:00 （講義）「東京湾の漁業の歴史、内湾漁業はなぜ大切か」
11:00～12:00 講師による結果のとりまとめ方法の解説
12:00～13:00 昼食
13:00～15:00 結果のまとめ作業
15:00～16:00 発表会
16:00～16:15 閉講式
（内容については、天候等の理由により変更する場合があります。）

1、2日目の夜は宿舎でミーティングを行います。

プログラムの関連図書、Webサイト紹介

「アサリと流域圏環境」恒星社恒星閣－水産学シリーズ（2007年）（上級者向け）

独立行政法人 水産総合研究センター「水生生物情報データベース」

URL：http://www.fra.affrc.go.jp/db/dbindex.html